

## コハクチョウ (学名: *Cygnus columbianus*)

[カモ目 カモ科]



▲手前のコハクチョウは水に首を突っ込んで採食している

今年も、只見町にコハクチョウが越冬のためにやってきました。町内で唯一の飛来地は塩沢地区の滝湖で、朝や晩にはよくその姿を見ることができます。ハクチョウは、主にシベリアで繁殖し、えさ場が凍る冬季になると温暖な日本にやってくる渡り鳥です。日本で越冬するハクチョウにはコハクチョウとオオハクチョウがいます。コハクチョウはオオハクチョウに比べ頸が短く、また、くちばしの黄色の部分<sup>くび</sup>が鼻孔の手前で終わっており、面積が小さい点で見分けることができます。河川、湖沼などに生息し、水草の葉や根、落ち穂などを食べて過ごします。

只見町で初めてハクチョウが確認されたのは1983年で、滝湖に3羽が飛来しました。滝湖は滝ダムの建設によってできた人造湖ですが、これによりハクチョウが好む湖のような環境が生まれたと考えられます。その後、「只見町白鳥を守る会」の餌付けなどの活動があり、年々只見への飛来数が増加し、平均50羽のハクチョウが飛来するまでになりました。しかし、2011年の新潟・福島豪雨災害による河川環境の変化から、姿が見られなくなりました。豪雨災害から8年を経た今では、少しずつ、滝湖で越冬するハクチョウが確認されるようになりました。以前のような光景が見られる日もそう遠くはないのかもしれません。

### 企画展

「只見の外来生物 — その生態と影響」

と き:3月18日(月)まで開催中

ところ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

### 講座

「外来生物をどう防ぐか—外来種問題を知るところから始めよう」

講 師:池上 真木彦 氏(国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター)

と き:2月17日(日)13:30~15:30

ところ:朝日振興センター 2階ホール(参加費/無料)

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください